

第139回 日商簿記検定試験 2級 一商業簿記一 解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 建設仮勘定

最終回の支払分¥10,000,000を建設仮勘定に計上するとともに、当座預金勘定を減額する。また、工事代金の総額のうち¥29,200,000を建物勘定の借方に計上し、修繕費¥800,000を修繕費勘定の借方に計上するとともに、合計額¥30,000,000を建設仮勘定の貸方に計上する。

2. 長期前払費用

3年分の広告宣伝費¥2,700,000を長期前払費用勘定の借方に計上するとともに、普通預金勘定を減額する。また、当期1か月分の費用（¥2,700,000÷36か月＝¥75,000）を広告宣伝費勘定の借方に計上するとともに、長期前払費用勘定の貸方に計上する。

3. 定期預金

(1) 受取利息

$$¥15,000,000 \times 1\% = ¥150,000$$

(2) 仮払法人税等（源泉所得税）

$$¥150,000 \times 20\% = ¥30,000$$

(3) 貸方の定期預金

$$¥15,000,000$$

(4) 借方の定期預金

$$¥15,000,000 + \{ ¥150,000 \text{ (受取利息)} - ¥30,000 \text{ (源泉所得税)} \} = ¥15,120,000$$

4. 修繕費

修繕費用の支払額¥6,000,000を普通預金勘定を減額する。また、前期までに設定された引当金¥5,000,000を修繕引当金勘定の借方に計上するとともに、残額の¥1,000,000を修繕費勘定の借方に計上する。

5. 租税公課

固定資産税¥2,400,000を租税公課勘定の借方に計上し、不動産取得税¥1,100,000を土地勘定の借方に計上するとともに、その合計額¥3,500,000を未払金勘定の貸方に計上する。

第2問（有形固定資産）

1. 平成25年度における各取引の仕訳

(1) 備品A及び備品Bの取得（平成25年1月1日）

（借）	備	品	520,000	（貸）	現	金	520,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---------

(2) 備品Cの取得（平成25年10月1日）

（借）	備	品	160,000	（貸）	現	金	160,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---------

(3) 減価償却（平成25年12月31日）（問1の解答）

（借）	減	価	償	却	費	90,000	（貸）	備品減価償却累計額	90,000
-----	---	---	---	---	---	--------	-----	-----------	--------

（注1） 備品A：¥200,000÷5年＝¥40,000

（注2） 備品B：¥320,000÷8年＝¥40,000

（注3） 備品C：¥160,000÷4年×3/12（平成25年10月～12月）＝¥10,000

（注4） 減価償却費：¥40,000＋¥40,000＋¥10,000＝¥90,000

2. 平成26年度における各取引の仕訳

(1) 備品Aの売却（平成26年1月1日）（問2の解答）

（借）	備品減価償却累計額	40,000	（貸）	備	品	200,000
	現	金	100,000			
	備	品	売	却	損	60,000

（注） 備品売却損

$$\{ ¥200,000 \text{ (取得原価)} - ¥40,000 \text{ (減価償却累計額)} \} - ¥100,000 \text{ (売却価額)} = ¥60,000$$

(2) 減価償却（平成26年12月31日）（問3の解答）

（借）	減	価	償	却	費	80,000	（貸）	備品減価償却累計額	80,000
-----	---	---	---	---	---	--------	-----	-----------	--------

（注1） 備品B：¥320,000÷8年＝¥40,000

（注2） 備品C：¥160,000÷4年＝¥40,000

（注3） 減価償却費：¥40,000＋¥40,000＝¥80,000

(3) 備品勘定及び備品減価償却累計額勘定の記入面（問4の解答）

① 備品勘定の前期繰越

$$¥200,000 \text{ (備品A)} + ¥320,000 \text{ (備品B)} + ¥160,000 \text{ (備品C)} = ¥680,000$$

② 備品勘定の諸口

$$¥200,000 \text{ (上記(1)の仕訳を参照)}$$

③ 備品勘定の次期繰越

$$¥680,000 \text{ (前期繰越)} - ¥200,000 \text{ (売却)} = ¥480,000$$

④ 備品減価償却累計額勘定の前期繰越

$$¥90,000 \text{ (平成25年12月31日の決算整理仕訳)}$$

⑤ 備品減価償却累計額勘定の備品

$$¥40,000 \text{ (上記(1)の仕訳を参照)}$$

⑥ 備品減価償却累計額勘定の減価償却費

$$¥80,000 \text{ (平成26年12月31日の決算整理仕訳)}$$

⑦ 備品減価償却累計額勘定の次期繰越

$$¥90,000 \text{ (前期繰越)} - ¥40,000 \text{ (売却)} + ¥80,000 \text{ (減価償却費)} = ¥130,000$$

3. 平成27年度における各取引の仕訳

(1) 備品Bの除却（平成27年1月1日）（問5の解答）

(借)	備品減価償却累計額	80,000	(貸)	備	品	320,000
	貯	蔵	品			50,000
	備	品	除	却	損	190,000

(注1) 備品減価償却累計額： $\text{¥}320,000 \div 8 \text{年} \times 2 \text{年} = \text{¥}80,000$

(注2) 貯蔵品： $\text{¥}50,000$ （見積処分価額）

(注3) 備品除却損

$$\{\text{¥}320,000 \text{ (取得原価)} - \text{¥}80,000 \text{ (減価償却累計額)}\} - \text{¥}50,000 \text{ (見積処分価額)} = \text{¥}190,000$$

(2) 200%定率法による場合の備品Bの除却（平成27年1月1日）（問6の解答）

(借)	備品減価償却累計額	140,000	(貸)	備	品	320,000
	貯	蔵	品			50,000
	備	品	除	却	損	130,000

(注1) 備品減価償却累計額

① 平成25年度の減価償却費： $\text{¥}320,000 \times 25\% = \text{¥}80,000$

② 平成26年度の減価償却費： $(\text{¥}320,000 - \text{¥}80,000) \times 25\% = \text{¥}60,000$

③ 合計： $\text{¥}80,000 + \text{¥}60,000 = \text{¥}140,000$

(注2) 貯蔵品： $\text{¥}50,000$ （見積処分価額）

(注3) 備品除却損

$$\{\text{¥}320,000 \text{ (取得原価)} - \text{¥}140,000 \text{ (減価償却累計額)}\} - \text{¥}50,000 \text{ (見積処分価額)} = \text{¥}130,000$$

第3問

1. 修正事項

(1) 約束手形の回収

(借)	現	金	預	金	400,000	(貸)	受	取	手	形	400,000
-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

(2) 火災損失の修正

(借)	未	収	金	1,000,000	(貸)	火	災	損	失	1,000,000
-----	---	---	---	-----------	-----	---	---	---	---	-----------

(3) 解答の金額

◇ 現金預金： $\text{¥}7,948,000$ （試算表） $+ \text{¥}400,000$ （約束手形の回収） $= \text{¥}8,348,000$

◇ 受取手形： $\text{¥}2,530,000$ （試算表） $- \text{¥}400,000$ （約束手形の回収） $= \text{¥}2,130,000$

◇ 未収金： $\text{¥}1,000,000$ （火災損失の修正）

◇ 火災損失： $\text{¥}3,000,000$ （試算表） $- \text{¥}1,000,000$ （火災損失の修正） $= \text{¥}2,000,000$

2. 売上原価の計算・商品評価

(1) 決算整理仕訳（売上原価の集計場所は売上原価勘定とする）

(借)	売	上	原	価	3,700,000	(貸)	繰	越	商	品	3,700,000	
	売	上	原	価	33,000,000		仕		入		33,000,000	
	繰	越	商	品	4,000,000		売	上	原	価	4,000,000	
	棚	卸	減	耗	損	150,000		繰	越	商	品	150,000
	商	品	評	価	損	240,000		繰	越	商	品	240,000
	売	上	原	価	150,000		棚	卸	減	耗	損	150,000
	売	上	原	価	240,000		商	品	評	価	損	240,000

(2) 解答の金額

◇ 商品： $\text{¥}4,000,000$ （期末商品帳簿棚卸高） $- \text{¥}150,000$ （棚卸減耗損） $- \text{¥}240,000$ （商品評価損） $= \text{¥}3,610,000$

◇ 売上原価： $\text{¥}3,700,000$ （期首商品） $+ \text{¥}33,000,000$ （当期仕入高） $- \text{¥}4,000,000$ （期末商品） $+ \text{¥}150,000$ （棚卸減耗損） $+ \text{¥}240,000$ （商品評価損） $= \text{¥}33,090,000$

3. 貸倒引当金

(1) 決算整理仕訳

(借)	貸倒引当金繰入額	14,000	(貸)	貸倒引当金	14,000
-----	----------	--------	-----	-------	--------

(注1) 貸倒引当金（要設定額）

$$\{\text{¥}2,130,000 \text{ (受取手形)} + \text{¥}2,670,000 \text{ (売掛金)}\} \times 1\% = \text{¥}48,000$$

(注2) 貸倒引当金繰入額

$$\text{¥}48,000 \text{ (要設定額)} - \text{¥}34,000 \text{ (試算表の貸倒引当金)} = \text{¥}14,000$$

(2) 解答の金額

◇ 受取手形の貸倒引当金： $\text{¥}2,130,000$ （受取手形） $\times 1\% = \text{¥}21,300$

◇ 売掛金の貸倒引当金： $\text{¥}2,670,000$ （売掛金） $\times 1\% = \text{¥}26,700$

4. 減価償却費

(1) 建物の取得原価

建物の取得原価をXとおくと、

$$X - X \times 0.9 \div 40 \text{年} \times 20 \text{年} = \text{¥}11,000,000 \text{ (試算表の建物)}$$

$$\therefore X = \text{¥}20,000,000$$

(2) 備品の取得原価

備品の取得原価をYとおくと、

$$Y - Y \times 0.25 = \text{¥}3,750,000 \text{ (試算表の備品)}$$

$$\therefore Y = \text{¥}5,000,000$$

(3) 決算整理仕訳

(借) 減価償却費	1,387,500	(貸) 建物備品	450,000 937,500
-----------	-----------	----------	--------------------

(注1) 建物： $\text{¥}20,000,000$ （取得原価） $\times 0.9 \div 40\text{年} = \text{¥}450,000$

(注2) 備品： $\text{¥}3,750,000$ （試算表の備品） $\times 0.25 = \text{¥}937,500$

(4) 解答の金額

- ◇ 建物減価償却累計額
 $\text{¥}20,000,000$ （取得原価） $\times 0.9 \div 40\text{年} \times 21\text{年}$ （当期末までの年数） $= \text{¥}9,450,000$
- ◇ 備品減価償却累計額
 $\text{¥}5,000,000$ （取得原価） $- \text{¥}3,750,000$ （試算表の備品） $+ \text{¥}937,500$ （減価償却費） $= \text{¥}2,187,500$

5. 消費税

(借) 仮受消費税	2,100,000	(貸) 仮払消費税	1,650,000
		未払消費税	450,000

(注) 未払消費税： $\text{¥}2,100,000$ （仮受） $- \text{¥}1,650,000$ （仮払） $= \text{¥}450,000$

6. 退職給付引当金

(1) 決算整理仕訳

(借) 退職給付費用	300,000	(貸) 退職給付引当金	300,000
------------	---------	-------------	---------

(2) 解答の金額

- ◇ 退職給付引当金： $\text{¥}640,000$ （試算表） $+ \text{¥}300,000$ （退職給付費用） $= \text{¥}940,000$

7. 受取利息の見越し

(借) 未収収益	1,250	(貸) 受取利息	1,250
----------	-------	----------	-------

(注) $\text{¥}1,000,000 \times 0.3\% \times 5 / 12$ （平成25年11月～平成26年3月） $= \text{¥}1,250$

8. 支払利息の見越し

(1) 決算整理仕訳

(借) 支払利息	90,000	(貸) 未払費用	90,000
----------	--------	----------	--------

(注) $\text{¥}9,000,000$ （試算表の長期借入金） $\times 4\% \times 3 / 12$ （平成26年1月～平成26年3月） $= \text{¥}90,000$

(2) 解答の金額

- ◇ 支払利息： $\text{¥}180,000$ （試算表） $+ \text{¥}90,000$ （未払費用） $= \text{¥}270,000$

9. 支払地代の繰延

(1) 決算整理仕訳

(借) 前払費用	60,000	(貸) 支払地代	60,000
----------	--------	----------	--------

(注1) 試算表の支払地代は、期首の再振替による1か月と5月1日に支払った12か月の合計13か月が計上されている。

(注2) 前払費用： $\text{¥}780,000$ （試算表の支払地代） $\div 13\text{か月} = \text{¥}60,000$

(2) 解答の金額

- ◇ 支払地代： $\text{¥}780,000$ （試算表） $- \text{¥}60,000$ （前払費用） $= \text{¥}720,000$

10. 未払法人税等の計上

(借) 法人税、住民税及び事業税	500,000	(貸) 仮払法人税等	200,000
		未払法人税等	300,000

(注) 未払法人税等
 $\text{¥}500,000$ （法人税、住民税及び事業税） $- \text{¥}200,000$ （試算表の仮払法人税等） $= \text{¥}300,000$

11. 損益計算書

損益計算書			(単位：円)
平成25年4月1日～平成26年3月31日			
I 売上高			42,000,000
II 売上原価			33,090,000
売上総利益			8,910,000
III 販売費及び一般管理費			
給料	1,920,000		
通信費	369,750		
支払地代	720,000		
貸倒引当金繰入額	14,000		
退職給付費用	300,000		
減価償却費	1,387,500		4,711,250
営業利益			4,198,750
IV 営業外収益			
受取利息	1,250		1,250
V 営業外費用			
支払利息	270,000		
有価証券売却損	360,000		630,000
経常利益			3,570,000
VI 特別利益			
固定資産売却益	430,000		430,000
VII 特別損失			
火災損失	2,000,000		2,000,000
税引前当期純利益			2,000,000
法人税、住民税及び事業税			500,000
当期純利益			1,500,000

12. 繰越利益剰余金

$\text{¥}4,361,750$ （試算表） $+ \text{¥}1,500,000$ （当期純利益） $= \text{¥}5,861,750$